Yahoo!基金 2016 年度助成プログラム「防災減災活動支援助成部門」応募用紙

第 1 版（2016 年 9 月 14 日）

本サンプルは、応募用紙の書き方例を示したものです。記載内容は架空であり実在するプロジェクトではありません。Yahoo!基金事務局が記載内容のようなプロジェクトを推奨しているものでもありません。

1. 応募種別（いずれかに○）

○	防災減災プログラムの開発コース（助成上限金額 100 万円）
	防災減災プログラムの運用コース（助成上限金額 400 万円）

2. 応募団体について

2-1. 団体概要

団体名（法人格を含む正式名称）	（フリガナ）ヤフーキキン
	Yahoo!基金
団体住所	郵便番号 102-8282
	東京都千代田区紀尾井町 1-3
ホームページ URL	http://kikin.yahoo.co.jp/
Facebook ページ	https://www.facebook.com/YJcontribution/
Twitter	https://twitter.com/yahoojpkikin
代表者名	（フリガナ）ミヤサカ　マナブ
	理事長　宮坂　学
代表者略歴	1967 年生まれ。1997 年ヤフー株式会社入社。2002 年メディア事業部長、2009 年執行役員コンシューマ事業統括本部長、2012 年 4 月 CEO 就任を経て、2012 年 6 月より代表取締役社長。同月より Yahoo!基金理事長に就任。

2-2. 助成申請担当者

担当者名	（フリガナ）キキン　タロウ
	基金　太郎

コメントの追加 [Microsoft1]: 団体ホームページは必須です

コメントの追加 [Microsoft2]: 無い場合は空欄で構いません

コメントの追加 [Microsoft3]: 無い場合は空欄で構いません

メールアドレス	kikin-josei-master@mail.yahoo.co.jp
電話番号	03-1234-5678
連絡の取りやすい時間帯と方法	平日日中ならお電話で、それ以外の時間帯はメールでお願いします

コメントの追加 [Microsoft4]: 応募用紙に記載した内容について電話で問い合わせさせて頂く場合がございます、できるだけ電話対応が可能な時間帯をお知らせください

2-3. 組織構成

役員・理事	5名（常勤1名/非常勤4名）
有償スタッフ	2名（常勤2名/非常勤0名）
ボランティアスタッフ	20名
その他スタッフ	

2-4. 情報公開（URLをご記載ください）

コメントの追加 [Microsoft5]: できる限り情報開示されていることが望ましいです

定款	http://kikin.yahoo.co.jp/profile/
平成27年度事業報告書	http://kikin.yahoo.co.jp/report/activity.html
平成27年度財務諸表	http://kikin.yahoo.co.jp/profile/
平成27年度役員名簿	http://kikin.yahoo.co.jp/profile/
平成28年度活動予算書	添付した資料を参照してください
平成28年度活動計画書	添付した資料を参照してください

※ウェブ公開している場合、応募時の上記書類の添付は必要ありません

2-5. 設立主旨（簡潔にご記載ください）

2005 年の福岡西方沖地震をきっかけに自然災害による被災地と被災者の復旧、復興支援を目的に2006年にヤフー株式会社が立ち上げた任意団体。災害被災者支援だけに留まらず、インターネット社会の健全かつ安全な発展への寄与をもうひとつの活動の柱とし、幅広い分野を対象に活動している。

2-6. 団体の強み

ユーザー募金を活動資金のひとつの柱としているが、募金と同額をヤフー株式会社がマッチング寄付する仕組みを設立時より導入。東日本大震災や熊本地震といった国内災害に加え、国外のセルビア洪水災害、ネパール地震、台南地震などの募金活動を通じて24億円を超える募金を集め被災者支援を行っている。

2-7. 会計処理方法（いずれかに○）

	手書きによる計算・処理
	エクセルで計算・処理
○	会計ソフトで計算・処理
	その他（具体的に：　　）

2-8. 団体運営方法（重要事項の決議方法、頻度など）

活動内容は定款に基づく。また災害時の寄付実施ならびに募金開設のための基準等を定めた細則があり、そこに定めたルールに基づく運営している。 重要事項は、四半期に一度開かれる定期理事会で討議のうえ決議。緊急事項は理事会を待たず、書面決議により決裁を得る場合もある。書面決議にあたり特別な条件等は設定していない。2015 年 12 月から専務理事を設置し、小規模助成の決裁等権限を理事会から委譲している。

コメントの追加 [Microsoft6]: 団体運営がどのように行われているのか簡単に把握させて頂くための項目です

2-9. ここ 1 年以内の活動実績（主要な項目を 3 点まで箇条書きで）

1. 2015 年度助成プログラムを通じた IT 助成 1 団体、東日本大震災復興支援助成 5 団体への助成実施
2. 2016 年熊本地震災害における募金実施と現地緊急支援活動を支援するための熊本 NPO 活動支援助成プログラムの緊急実施し 40 団体の活動を支援
3. 東日本大震災復興支援助成の少額助成版である通年受付を 2015 年 9 月より開始。これまでに 5 回の審査を通じて 17 団体の活動を支援

3. 応募プロジェクトについて

3-1. プロジェクト概要

名称	住民による住民のためのハザードマッププロジェクト
申請金額	610,000 円（総額）
概要 （200 文字程度で簡潔に）	行政が作成配布するハザードマップを元に、その地域でかつて起きた災害に基づく予兆現象や言い伝えを書き加えていく。住民の手によるハザードマップの完成を通じて、住民同士の繋がりを深め、発災時迅速に避難行動がとれるよう訓練する。

コメントの追加 [Microsoft7]: プロジェクトに掛かる費用の総額ではなく、助成応募の対象となる金額の総額です

添付資料	無（別途プロジェクト説明資料の有無） ※有りの場合、応募時に添付してください
課題（必要性もしくは目的）	2007 年に全国で起きた主な土砂災害で人的・家屋被害が生じた 84 箇所のうち事前に避難勧告が出ていたのはたった 3 箇所（「人が死なない防災」片田敏孝著による）。 土砂災害が起こりうる状況で行政からの情報に依存していたら命を守れないことはこのデータからも明かである。 もしもの災害時に適切な避難行動が取れるよう気持ちの切り替えと日頃からの準備が必要となる。
これまでの活動実績と成果（箇条書き）	新たなプログラム開発となるため、この分野における実績はない。
これまでの活動実績と成果がわかる情報 URL	（運用コースを選択の場合、直近 2 年程度分の実績と成果を示してください） なし
これからの活動内容	防災学を研究している研究者を監修にまねき、半年をかけてプログラムを開発する。プログラム開発と平行してフィールドテストを行うための自治体を探し協力を得る。半年をかけてテストを実施し、そこから得られた成果を元にプログラムを改良する。2 年目はフィールドテスト先をさらに最低 2 自治体発掘しテストを実施していく。そこから得られた成果をフィードバックし更にブログラムを洗練させたものにする。
活動予定地域、場所	未定
助成対象期間中に達成したい事項のうち、優先順位の高いものを 3 点記載ください	1. 住民の手による改良が加えられたハザードマップの完成
	2. 完成したハザードマップに基づく自主防災計画の立案
	3. 計画に基づく防災訓練など住民による自律的行動

3-2. 収支計画

※収支計画部分は、別途用意しているエクセルシートによる提出も可とします

	収支計画はエクセルシートに記載する場合は〇

コメントの追加 [Microsoft8]: 3-2.収支計画と同じ内容をエクセルシートでご用意しています。支出明細がたくさんあるなどの場合、そちらへの記載でも構いません。また、科目によっては見積もり書の提出をお願いする場合があります。

本プロジェクトを通じた収入実績・これからの見込

3-2-1. 助成金、寄付金等

助成金名称	期間	金額
該当なし		

3-2-2. 事業収益

コメントの追加 [Microsoft9]: 助成期間に限らず助成完了後も見据えて事業継続のために考えている収益源などあればご記入ください

事由	金額	計算根拠
プログラム運営の受託費（将来的に自治体からの受注ができるようにしていきたい）	100,000	1 自治体あたりの価格設定

3-2-3. その他の収入

事由	金額	計算根拠
該当なし		

本プロジェクトを通じた支出の見込み

コメントの追加 [Microsoft10]: 助成対象とする支出だけでなく、本プロジェクトの実施に掛かる支出予定はすべてご記載ください
本助成金で賄いたい科目には、「助成対象」に〇を記してください

3-2-4. プロジェクト予算

科目	説明	金額	計算根拠	助成対象
謝礼	プログラム開発に協力頂く研究者への謝礼	30,000	協力者との調整結果	〇
交通費	フィールドテスト先自治体への	300,000	概算（自治体決定後に確定金額	〇

	移動		にて精算）	
印刷費	完成したプログラムの印刷費	100,000	4C/12P/A4 縦パンフレット制作費概算（プログラム完成時に正式見積もりに基づき精算）	○
人件費	アルバイトスタッフ雇用	180,000	時給 1000 円×30 時間×6 か月×1 名	○

コメントの追加 [Microsoft11]: 制作費、印刷費など業者へ発注を計画している経費はできるだけ見積書を添付してください

※支出内容の中で本助成対象としたい項目は「助成対象」に○
※行が足りない場合は追加してください

3-2-5. 支出に関する補足事項（特記したい内容があればご記載ください）

現段階では交通費等は概算金額です 助成後、詳細が詰まった時点で改めて見積もりを提示し実費精算で進めさせてください

3-3. 実施計画と体制

3-3-1. 計画

時期	実施内容
2017 年 3 月	（1 年間の活動計画の策定、1 年後達成成果の設定） （上期分助成金振込）
2017 年 4 月～6 月	・監修者との関係構築 ・プログラムの開発開始 ・フィールドテスト自治体の調査・交渉開始
2017 年 6 月	（進捗確認ミーティング）

2017年7月～9月	・フィールドテスト自治体の調査・交渉継続 ・協力自治体の確定 ・プログラムの完成
2017年9月	（中間報告書提出ならびに報告会実施）
2017年10月	（下期分助成金振込）
2017年10月～12月	・現地視察、自治会長などステークホルダーとの関係構築 ・プログラムの実施（月1回の頻度で実施）
2017年12月	（進捗確認ミーティング）
2018年1月～3月	・次の協力自治体の調査・交渉開始 ・プログラムの実施（住民の手によるハザードマップの完成） ・フィールドテストを通じた成果を元にプログラムの改善 ・プログラムを説明するパンフレットの制作
2018年4月	（完了報告書提出ならびに報告会実施）
2018年5月	（助成金残金振込）

※グレー字の予定はYahoo!基金と団体間の実施予定項目

3-3-2.団体内の実施体制

役割	専従/兼務	人数
プロジェクトリーダー：当団体スタッフ〇〇が担当	専従	1
プログラム開発メンバー（当団体スタッフ）	兼務	1
プログラム開発サポート（アルバイト雇用）	兼務	1

3-3-3.重要なパートナー

パートナー名称	パートナーの役割	関係構築状況

○○大学○○学部○○○○教授	プログラムの監修 専門家としての知見	現在は面識無し、今後関係構築をしていきます
自治体自治会役員	フィールドテストへの参加協力	自治体確定次第、関係構築開始
○○県○○市防災対策課	フィールドテストにあたって自治体紹介	数度の打ち合わせを経て関係構築、前向きに協力の姿勢、候補自治会の選定にも助言をもらう関係

※関係構築状況は団体とパートナーとの関係を今後築いていくのか、既に築かれているものかをご記載ください

3-3-4. 事業を実施するにあたり必要な資格と許認可（どちらかに○）

	有り
○	無し

3-3-5.資格と許認可一覧（3-3-4.で有りの場合はご記載ください）

資格・許認可名（許認可の場合は認可元団体名も記載）	保有者数

3-4.プロジェクトのリスク

現在把握できているプロジェクト進捗における懸念材料があれば箇条書きでご記載ください

リスク：
フィールドテストを実施するにあたり、自治体の協力が必要となりますが、これから探していくため計画通りに進捗できないリスクがあります
対策方針：
自治体が公表している土砂災害危険場所地図に基づき、地形的特徴もふまえ本プログラムとの親和性がありそうな候補自治体を 10 洗い出し、あたっていく

申請書こまで（以下、事務局使用欄）